

第1学年〇組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 題材 「生活に役立つ物を作ろう」（ティッシュボックスカバー、ウォールボックス製作）

2 指導観

- 近年、産業構造の変化により、家庭内の生産機能は企業へ移行し、ものが作られる過程を知らないまま、たくさんのもに囲まれた生活を送っている。使い捨て商品が増え、一度使えば捨てる、いらぬからそのままにしておく、といったような行動が見られる。そのため、ものを大切にすることや大事に扱うこと、創意工夫をするなど精神的な面での希薄さが見られるようになっている。

本題材では、手縫いの基礎的な技能を身に付け、生活に役立つ物を製作して、家庭で活用することをねらいとしている。小学校での既習事項を振り返りながら、技能の定着を促し、生活に役立つ物を製作する。学習内容としては、手縫いの基礎、立体構成、中表、製作計画、端の始末、まつり縫い、スナップ付けなどがある。製作学習を通して、製作に必要な技能を身に付け、手作りの良さを体感するとともに、家庭生活を快適に工夫する力をつけることをめざしている。このことは、家庭生活を主体的によりよくしていこうとするうえで意義がある。

- 生徒はこれまでに、小学校家庭科において玉どめ、玉結び、なみ縫い、かがり縫いなどの手縫いの基礎とミシンの基本的な操作を学習してきている。これらの技能を通して、エプロン作りやナップザック作りなどを行っている。中学校においては、住居の基本的な機能についてや、室内環境の整え方を知り、快適な住まい方の工夫について考えてきた。

事前調査を行ったところ、「家庭科の学習は自分の生活に役立っている」と答えた生徒は %であったのに対して、「体操服のゼッケンや名札を自分で縫っている」生徒は %であった。この結果より、実際に生活の中で習得した技能を使わずに、自分以外の人にやってもらっている人が多いことが分かる。また「家庭科で学習したことを家でやっている」生徒は %であるが、そのほとんどが調理に関わることで、食事の手伝いをするというものであった。

このように、生徒は日常生活の中で、裁縫に関わる体験をする機会が少ない。よって、完成したときの喜びや、出来るようになったときの満足感を得る経験が乏しく、技能においても個人差が大きい。

- 指導にあたっては、日常生活を振り返らせ、製作するものを考えさせる。そして作り方や手順を考えた製作計画を立て、製作を行わせ、作品を作り上げることの喜びを味わわせていきたい。そこでまず、自分の家庭生活に目を向けさせるために、自分の家の中であると便利なもの、自分で製作できるものを考えさせる。家庭内の布製品を調べさせることで、日常生活は布に囲まれて生活していることにも気付かせる。次に、実物見本を見ながら、作り方を検討させる。立体構成やマチの作り方を理解させ、1枚の布から箱型の作り方を理解させる。さらに、縫い方については、玉どめ、玉結び、なみ縫いに加えてまつり縫い、スナップ付けを取り入れ、習得させる。製作品をどのようなところで使用できるかも合わせて指導する。最後に家庭で使用してのレポートを記入させる。ここでは、生活に役立つ物を工夫して製作することを通して、自分で家庭生活を豊かにしていくことができることを考えさせたい。

3 目標

- 生活に役立つものを意識して製作することを通して、目的に合った作品の製作に主体的に取り組むことができる。
- 製作について課題を見つけ、課題解決のために自分なりに工夫することができる。
- 製作の計画を立て、基本的な縫い方（玉どめ・玉結び・なみ縫い・まつり縫い・スナップ付け）ができる。
- マチ付きの立体の縫い方を理解するとともに、製作に関する基礎的な知識を身に付けることができる。

4 計画 (10 時間)

関：関心・意欲・態度 工：工夫創造 技：生活の技能 知：知識・理解

段階	配時	学習活動・内容	手だてと 研究に関する手だて	評価規準
気付く	1	1 生活に役立つものを探そう ・家庭内の布製品 ・よりよい住まい	○ 家庭の中にあると便利な物, 自分で製作できる物を 実物見本を見て 考えさせる。	関：家庭内の布製品を考え, 自分の家で使えるものを考えている。 <プリント分析>
見通す	4	2 基礎縫いを振り返ろう ・手縫いの基礎 3 製作計画を立てよう (1) 作り方を調べる ・立体の構造 ・マチの作り方 ・中表 ・三つ折り (2) 手順を考える ・縫い方 ・製作時間 (3) デザインを考える	○ 視聴覚教材を使い, 小学校で学習した手縫いの基礎を振り返らせる。 ○ 各班に 紙を準備し, 実際に形を作って 立体構成の工夫について考えさせる。 ○ 実物見本を見ながら 構成を考えさせる。 ○ 製作計画書 にどのように使うかや縫い方などを考えさせて記入させる ○ 普段利用していない布製品を使うことで資源の有効活用の視点を取り入れさせる。	知：玉どめ, 玉結び, なみ縫いを理解している。 <テスト, 様相チェック> 工：箱型の基本的な構成の特徴を理解し, 立体構成の工夫について考えることができる。<プリント分析> 工：製作工程を自分なりに工夫して計画を立てることができる。<計画書分析> 技：製作物のイメージを具体的にデザインすることができる。<計画書分析>
さぐる・まとめる	5	4 製作しよう ・布の裁断, しろしつけ ・端の始末 ・中表 ・マチの作り方 ・なみ縫い, まつり縫い ・スナップ付け ・仕上げ	○ 製作物ごとのグループに分け, 情報交換しながら製作させる。 ○ 製作計画書 に沿って製作をさせ, 実物見本の活用 を促す。 ○ 縫い方見本を見て, まつり縫いのポイントを押さえ, 技能を習得させる。 ○ スナップ付けの方法を調べて実習できるように 実物大見本を準備する。	技：製作計画にそって作業を進めることができる。 <活動チェック> 関：製作に必要な材料や用具を準備し, 製作しようとしている。<様相観察> 技：まつり縫いができる。 <作品分析> 技：スナップ付けができる。 <作品分析>
生かす	課外	製作品を使ってみてのレポートをまとめよう	○ 工夫点や, 製作を通しての感想などを書かせる。 ○ 家族の感想や使い心地を通して改善点があるか考えさせる。	関：製作した作品を生活の中で活用している。 <レポート分析>

5 本時 平成 22 年 月 日 () 時間目

(1) 本時の指導観

前時までに生徒は, 家庭内の布製品に着目したり, あると暮らしやすくなったりするようなものを考えている。その中でティッシュボックスカバーとウォールラックの 2 種類の中から製作品を選んでいる。さらに小学校の既習事項である玉どめ, 玉結び, なみ縫いなどの手縫いの基礎を復習している。

そこで本時では、自分が作ろうとする製作品の立体構成や縫い方を検討し、製作計画を立てる準備を行い、立体の作り方とマチのとり方が分かることをねらいとしている。そのためにまず、製作する作品をなぜ作ろうと思ったかを振り返らせ、見本を提示し、本時のめあてを確認する。次に、グループごとに図案から、構成を予想させる。裏表の分かる紙を準備し、実際に形を作ってみながら、立体構成の工夫について考えさせる。さらに気づいたことをまとめさせ、マチの作り方や中表について考えさせる。最後に本時のまとめを行い、次時は縫い方や手順などを考えることを知らせる。

(2) 主眼

- 箱型の基本的な構成の特徴を理解し、立体構成の工夫について考えることができる。
- グループで協力して作業を進め、課題解決に意欲的である。

(3) 準備

- ①ティッシュケースカバーの見本 ②ウォールラックの見本 ③学習プリント
- ④布 ⑤製作計画書 ⑥裏表の分かる紙 ⑦ホッチキス ⑧のり

(4) 過程

学 習 活 動・内 容	準 備	留 意 点 (◇評価)	形 態	配 時
1 前時の内容を振り返り、本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">立体構成を考えよう</div>	①	○ 製作見本を見せ、自分が作ろうとしているものを確認させ、前時までの学習を振り返らせる。	一 斉	5
2 箱型の構成を予想する。 ・展開図	② ③ ④	○ 1枚の布を見せ、予想される形を学習プリントに記入させる。 ○ 箱を覆う方法や底のあるバッグを考えさせる。	個	10
3 各班に分かれ、ウォールラックとティッシュボックスカバーを紙で試作する。 ・立体の構造 ・マチの作り方 ・中表 ・三つ折り	⑤ ⑥ ⑦ ⑧	○ 班を2つに分けさせ、それぞれティッシュボックスカバーとウォールラックを紙で作らせる。 ○ 裏表の分かる紙を渡し、表が表面にくるように考えさせて作らせる。 ○ 製作計画書を配布し、作り方を確認させる。 ○ つまづいているグループには実物見本を見せる。 ◇関：班で協力して立体を作ることに参加しているか。<様相観察> ○ 作ってみて気づいたことを製作計画書にまとめる。 ○ 班内で意見交換させ、他の人の意見を参考にさせる。	各 班	15
4 気付いたことをまとめ、発表する。 ・苦勞したところ ・気を付けるところ ・工夫点		○ 班の代表に発表させ、全体でポイントをおさえる。 ◇工：立体を縫うためのマチと中表について考えることができたか。 <プリント分析>	個 ↓ 班 ↓ 一 斉	15
5 本時のまとめと次時の予告を聞く。		○ 計画書にまとめられたか確認し、次時は縫い方などを考えることを伝える。	一 斉	5

